

講義名	国際物流論			授業形態	
担当教員	李 志明	開講期・曜口・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生
				ナンバリング・コード	
主題と概要					
物流とは、企業や私達が使うモノの流れである。そのモノは原材料から完成品までのすべてのモノであり、これらのモノが国際間で流れている。国際物流は、企業間の輸出入によって生じる。また、今の企業のマネジメントはグローバルに行われており、その分、直面している課題も多様である。なお、国際物流は基本的に英語を要する。このことから、本講義では、モノが国際間で流れる仕組みと実態を議論する。そして国際物流における課題と解決案を議論する。なお、一部の講義では簡単な英語資料を用いる。					
到達目標					
(1)国際的に行われる物流の動向と実態が理解できる。 (2)ロジスティクスにおけるグローバル戦略の動向と問題点が理解できる。 (3)海外の物流が理解でき、戦略立案に貢献する。					
提出課題					
Responを用いて、2回テストを実施する予定。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
テストの解説とともに質問や意見についてフィードバックする。					
評価の基準					
授業中に行うテスト2回で評価する。 学期中に授業方式が変更する場合でも評価基準は変更しない。					
履修にあたっての注意・助言他					
1. 授業中の議論に積極的に参加してほしい。 2. 英語資料は事前に予習して読めるようにしてほしい。					
教科書					
.使用しない。					
参考図書					

その他		
適宜資料を配布する。		
授業計画		
1. 国際物流論の紹介 2. 物流の概念と国際物流 3. 企業の国際化と国際物流 4. 国際貿易の仕組みと契約 5. 国際貿易と国際物流 6. 国際物流の担い手 7. ファストファッション業界と国際物流（英語資料） 8. ファストファッション業界の国際物流戦略（英語資料） 9. 世界中の国際物流動向 10. 国際物流とインフラストラクチャー 11. 国際物流とコンテナ輸送システム 12. 国際航空物流の仕組みと複合一貫輸送システム 13. 国際物流による市場拡大（英語資料） 14. 国際物流における温度管理（英語資料） 15. まとめと国際物流の再考察		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
この授業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業で毎回90分、予習・復習で毎回4時間である。授業中に案内する次回の内容についてネットなどを利用して3時間予習する。そして1時間の復習をする。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
国際物流の仕組みを理解し、DPの「企業マネジメントに関する問題探索、課題提案に貢献できる」ようになる。また、グローバル企業のマネジメントにおいて必要な国際物流と国際貿易を理解することで、DPの「経営のグローバルな側面に関心を抱き、グローバルな課題に直面する組織で現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案に貢献できる」ようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
1. 授業中に議論する。 2. Responを利用して、意見や考え方を共有する。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり。 物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などを伝え、より現実感のある講義を提供する。		
備考		